

# I 道徳教育推進のための基本的な方針

# 道徳教育推進のための基本的な方針（改訂版）

千葉県教育委員会

第3期千葉県教育振興基本計画「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」の実現に向けて、道徳性を高める心の教育を推進するために、今後の千葉県における道徳教育は、次の方針によって行う。

## I 基本的な考え方

- 1 子供たちが郷土と国を愛し、豊かでおおらかに、そして自信にあふれた頼もしい人間として成長し、真の国際人として活躍できるように、内面に根ざした道徳教育の充実に努める。
- 2 学校は、地域における道徳教育の中核として、子供たちが言語活動や読書活動、体験活動や社会参加活動などを通して、より深く考え、実践力を身に付けられるように、家庭や地域との連携に努める。

## II 千葉県における道徳教育の主題

千葉県では、子供たちが、人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりやつながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、自らの人生（「いのち」）をよりよく生きていけるように、学習指導要領等を踏まえて重点的な指導を行うこととする。

このため、『いのち』のつながりと輝き ～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～を千葉県における道徳教育の主題として掲げ、県民一体となった取組を推進する。

## III 重点化の視点

『いのち』のつながりと輝き」という主題を実現するために、以下の4つの視点から教育内容の重点化を図る。

### すばらしい「いのち」

全ての生命を尊重し、生命を育む自然や地球を大切にし、共に生きていこうとする態度を養う。

### かけがえのない自分

自分のよさに気づき、よりよい生き方を探求し、自己実現を目指す態度を養う。

### 支え合う喜び

父母、祖父母等の家族や自分の周りにいる人たちの支えに感謝し、豊かな人間関係を築き、社会に貢献する態度を養う。

### つながる未来

郷土や国の伝統・文化を理解し、先人の生き方に学び、持続可能なよりよい社会を築こうとする態度を養う。

#### IV 発達段階に応じた取組の視点

教育振興基本計画の基本的な取組方針を踏まえ、子供たちが発達段階に応じて豊かな自然や多くの人々、様々な知識や技能に「ふれる」・「かかわる」・そして「つながる」ことで、人間的に成長していくことを目指す。

##### 就学前

様々な命や人とのふれあいの中で、人への愛情や信頼感を育て、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培う。

##### 小学校

自己の生き方についての考えを深めながら、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を養う。

##### 中学校

道徳的諸価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を養う。

##### 高等学校

自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

#### V 具体的な取組

幼稚園教育要領、小・中・高等学校・特別支援学校学習指導要領等における道徳教育を更に発展・充実させるため、Ⅱに掲げる「千葉県における道徳教育の主題」を踏まえ、道徳教育を体系化し、学習内容の重点化を図り、就学前から高等学校まで発達段階に応じて、「道徳科」・『道徳』を学ぶ時間等を要とした道徳教育の充実を図るなど、県民一体となった具体的な取組を促進する。

- 1 学校は、言語活動、読書活動、体験活動及び社会参加活動等に積極的に取り組み、子供たちが、人や社会、自然などとの豊かな関わりの中で、様々な経験を通して道徳性を養うように努める。
- 2 学校は、道徳教育推進教師等を中心に、全教職員が道徳教育の重要性についての理解を深めるため、研修の充実を図る。
- 3 小・中学校等では、「道徳科」における指導と評価の改善・向上に努めるとともに、授業を積極的に公開する。
- 4 高等学校等では、平成25年度から原則として第1学年（1年次）に35単位時間程度導入している『道徳』を学ぶ時間（平成23年1月6日付け、教指第1637号・教特656号により通知）を引き続き、特別活動の時間を中心に総合的な探究の時間等、各学校の教育課程に適切に位置付けて実施する。また、『道徳』を学ぶ時間を積極的に公開し、より一層の充実を図る。
- 5 校長は、家庭や地域社会の期待を踏まえながら、自らのリーダーシップの下、学校教育目標との関わりで、自校の道徳教育の基本的な方針を明確に示すことにより、道徳教育の改善・充実を具体的に図るよう努める。
- 6 県教育委員会は、各学校及び教職員の取組を支援するため、道徳教材や指導資料の整備、道徳教育に関する優れた取組などの情報提供に努める。

VI 学習内容

「ふれる」「かかわる」・そして「つながる」				
	すばらしい「いのち」	かけがえのない自分	支え合う喜び	つながる未来
就学前	<p>◆身のまわりのいろいろな「いのち」にふれる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の「いのち」を大切に</li> </ul>	<p>◆自分でできることは自分です</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活をする</li> <li>・してよいこと、いけないことが分かる</li> </ul>	<p>◆みんなと仲良くする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気なあいさつをする</li> <li>・正しい言葉遣いをする</li> <li>・お手伝いをする</li> <li>・家族とのふれあいを喜ぶ</li> </ul>	
小学校	<p>◆様々な「いのち」に関わり、その豊かさ、すばらしさを感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りの「いのち」あるものに気づく</li> <li>・かけがえのない「いのち」のすばらしさを感じる</li> </ul>	<p>◆自分のよさに気づき、なりたい自分を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を確立する</li> <li>・自分で決めたことをあきらめずにやり抜く</li> <li>・よりよい生き方を求める</li> <li>・将来の夢を見つけ出す</li> </ul>	<p>◆自分の周りにいる人たちの支えに感謝する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりの心を持ち、友達を大切にする</li> <li>・相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にする</li> <li>・進んで働く</li> <li>・家族に感謝する</li> <li>・約束や決まりを守る</li> </ul>	<p>◆優れた先人や地域の文化について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土や国の伝統と文化に親しむ</li> <li>・優れた先人への憧れの気持ちをもつ</li> <li>・祖先への敬愛の念をもつ</li> <li>・他国の人々や文化に親しむ</li> </ul>
中学校	<p>◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を尊重する態度を養う</li> <li>・多様な「いのち」との共生について考える</li> <li>・地球や自然を大切にすることを育む</li> </ul>	<p>◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を理解する</li> <li>・自己肯定感を高める</li> <li>・目標を立て、失敗を生かし、困難を乗り越え、着実に取り組む</li> <li>・自立した生き方を探求する</li> <li>・主体的に進路を選択する</li> </ul>	<p>◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝する心をもつ</li> <li>・思いやりのある行動をする</li> <li>・周りの人との信頼関係を築く</li> <li>・差別をせず、偏見をもたず、それぞれの個性や立場を尊重する</li> <li>・勤労の意義を理解し、勤労を通じて社会に役立とうとする</li> <li>・規律ある行動をとる</li> </ul>	<p>◆「先人の生き方」を学び将来を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土と国への愛着と誇りをもつ</li> <li>・優れた先人に学ぶ</li> <li>・日本人としての自覚をもつ</li> <li>・国際社会への関心をもつ</li> </ul>
高等学校	<p>◆共に「いのち」を輝かせ、よりよく生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の力を超えたものへの畏敬の気持ちをもつ</li> <li>・グローバルな視点から、地球全体、広い社会をみんなで守ることの大切さを考える</li> </ul>	<p>◆進路選択を通じて自己実現を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を確立する</li> <li>・人間としての在り方生き方を探求する</li> <li>・適切な進路を切り拓く</li> </ul>	<p>◆社会の一員として責任を果たす人間になる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員として、人権を尊重し、差別や偏見のないよりよい社会づくりに参画する</li> <li>・自分の役割と責任を自覚する</li> <li>・助け合いの精神をもち、実践する</li> <li>・家族を大切に、家庭生活を充実させる</li> </ul>	<p>◆伝統や文化を見つめ、よりよい社会を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や伝統、先人の生き方を通してよりよい社会の在り方を考える</li> <li>・郷土と国を愛する心をもつ</li> <li>・真の国際人として、また地球社会の一員としての自覚を深め、よりよい社会を実現する態度を養う</li> </ul>
参考 関連する 道徳の 内容項目	<p>D 生命の尊さ D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 D よりよく生きる喜び</p>	<p>A 善悪の判断、自主、自律、自由と責任 A 正直、誠実 A 節度、節制 A 向上心、個性の伸長 A 希望と勇気、努力、克己と強い意志 A 真理の探究、創造</p>	<p>B 親切、思いやり、感謝 B 礼儀 B 友情、信頼 B 相互理解、寛容 C 規則の尊重、遵法精神、公德心 C 公正、公平、社会正義 C 社会参画、公共の精神 C 勤労</p>	<p>C 家族愛、家庭生活の充実 C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 C 国際理解、国際親善、国際貢献</p>
<p>小・中学校学習指導要領の内容「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」との対応を「関連する道徳の内容項目」として示した。</p>				

附則 平成22年12月決定 平成30年2月改訂 令和2年3月改訂

# 千葉県道徳教育推進のための基本的な方針(改訂版)

千葉県における道徳教育の主題

## 「いのち」のつながりと輝き

～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～



千葉県では、平成22年12月に「道徳教育推進のための基本的な方針」を策定し、これまで道徳教育を推進してきました。この度、学習指導要領の改訂や義務教育における道徳の教科化、第3期千葉県教育振興基本計画等を踏まえ、千葉県道徳教育懇談会での検討を経て、本方針を改訂しました。

今後も千葉県がこれまで取り組んできた道徳教育を継承し、「『いのち』のつながりと輝き」という千葉県における道徳教育の主題の下、就学前から高等学校までの発達の段階に応じた道徳教育のより一層の充実を図るため、このリーフレットを御活用ください。

令和2年3月 千葉県教育委員会

### 道徳教育推進のための基本的な方針 改訂のポイント



#### 今回の改訂の基本的な考え方

学習指導要領改訂への対応

義務教育における道徳の教科化への対応

第3期千葉県教育振興基本計画への対応

#### 主な改訂内容

##### 学習指導要領改訂への対応

- 「Ⅲ 重点化の視点」
  - ・「共に生きる（他者との共生）」「持続可能な社会」等、学習指導要領に盛り込まれたキーワードを追加
- 「Ⅳ 発達の段階に応じた取組の視点」
  - ・高等学校の視点に記載されていた「道徳的実践力」という用語を「道徳性」に修正
- 「Ⅴ 具体的な取組」
  - ・校長のリーダーシップの下での道徳教育の改善・充実を追加
- 「Ⅵ 学習内容」
  - ・視点「すばらしい『いのち』」の高等学校の内容に「グローバルな視点」という文言を追加
  - ・「関連する道徳の内容項目」の「希望と勇気、努力（克己）と強い意志」「相互理解、寛容」「勤労」等に対応する学習内容を追加し、学習指導要領の内容項目を網羅

##### 義務教育における道徳の教科化への対応

- 「Ⅴ 具体的な取組」
  - ・小・中学校における「道徳科」の指導と評価の改善・向上を追加

##### 第3期千葉県教育振興基本計画への対応

- 前文
  - ・第3期千葉県教育振興計画の実現を目指すことを明記

# 道徳教育推進のための基本的な方針（改訂版）

千葉県教育委員会

第3期千葉県教育振興基本計画「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」の実現に向けて、道徳性を高める心の教育を推進するために、今後の千葉県における道徳教育は、次の方針によって行う。

## I 基本的な考え方

- 1 子供たちが郷土と国を愛し、豊かでおおらかに、そして自信にあふれた頼もしい人間として成長し、真の国際人として活躍できるように、内面に根ざした道徳教育の充実に努める。
- 2 学校は、地域における道徳教育の中核として、子供たちが言語活動や読書活動、体験活動や社会参加活動などを通して、より深く考え、実践力を身に付けられるように、家庭や地域との連携に努める。

家庭、地域と十分な連携を図って道徳教育を進めましょう。

## II 千葉県における道徳教育の主題

千葉県では、子供たちが、人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりやつながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、自らの人生（「いのち」）をよりよく生きていけるように、学習指導要領等を踏まえて重点的な指導を行うこととする。

このため、『いのち』のつながりと輝き～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～を千葉県における道徳教育の主題として掲げ、県民一体となった取組を推進する。

## III 重点化の視点

『いのち』のつながりと輝き」という主題を実現するために、以下の4つの視点から教育内容の重点化を図る。

### すばらしい「いのち」

全ての生命を尊重し、生命を育む自然や地球を大切にし、共に生きていこうとする態度を養う。

多様な他者との共生は、これからの教育のキーワード。

### かけがえない自分

自分のよさに気づき、よりよい生き方を探求し、自己実現を目指す態度を養う。

### 支え合う喜び

父母、祖父母等の家族や自分の周りにいる人たちの支えに感謝し、豊かな人間関係を築き、社会に貢献する態度を養う。

### つながる未来

郷土や国の伝統・文化を理解し、先人の生き方に学び、持続可能なよりよい社会を築こうとする態度を養う。

学習指導要領は、持続可能な社会の創り手の育成を目指しています。



#### IV 発達の段階に応じた取組の視点

教育振興基本計画の基本的な取組方針を踏まえ、子供たちが発達の段階に応じて豊かな自然や多くの人々、様々な知識や技能に「ふれる」・「かかわる」・そして「つながる」ことで、人間的に成長していくことを目指す。

##### 就学前

様々な命や人とのふれあいの中で、人への愛情や信頼感を育て、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培う。

##### 小学校

自己の生き方についての考えを深めながら、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を養う。

##### 中学校

道徳的諸価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を養う。

##### 高等学校

自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

学校の道徳教育全体計画をもとに、道徳教育のカリキュラム・マネジメントを進めましょう。

#### V 具体的な取組

幼稚園教育要領、小・中・高等学校・特別支援学校学習指導要領等における道徳教育をさらに発展・充実させるため、Ⅱに掲げる「千葉県における道徳教育の主題」を踏まえ、道徳教育を体系化し、学習内容の重点化を図り、就学前から高等学校まで発達の段階に応じて、「道徳科」（小・中学校）・「『道徳』を学ぶ時間」（高等学校）等を要とした道徳教育の充実を図るなど、県民一体となった具体的な取組を促進する。



- 1 学校は、言語活動、読書活動、体験活動及び社会参加活動等に積極的に取り組み、子供たちが、人や社会、自然などとの豊かな関わりの中で、様々な経験を通して道徳性を養うように努める。
- 2 学校は、道徳教育推進教師等を中心に、全教職員が道徳教育の重要性についての理解を深めるため、研修の充実を図る。
- 3 小・中学校等では、「道徳科」における指導と評価の改善・向上に努めるとともに、授業を積極的に公開する。
- 4 高等学校等では、平成25年度から原則として第1学年（1年次）に35単位時間程度導入している「『道徳』を学ぶ時間」（平成23年1月6日付け、教指第1637号・教特656号により通知）を引き続き、特別活動の時間を中心に総合的な探究の時間等、各学校の教育課程に適切に位置付けて実施する。また、「『道徳』を学ぶ時間」を積極的に公開し、より一層の充実を図る。
- 5 校長は、家庭や地域社会の期待を踏まえながら、自らのリーダーシップの下、学校教育目標との関わりで、自校の道徳教育の基本的な方針を明確に示すことにより、道徳教育の改善・充実を具体的に図るよう努める。
- 6 県教育委員会は、各学校及び教職員の取組を支援するため、道徳教材や指導資料の整備、道徳教育に関する優れた取組などの情報提供に努める。

「指導と評価の一体化」で授業改善。



県教育委員会作成の映像教材等を御活用ください。  
令和元年度は、「オリンピック・パラリンピック教育」との関連を図った道徳教育映像教材を作成しました。

## VI 学習内容

「ふれる」「かかわる」・そして「つながる」				
	すばらしい「いのち」	かけがえのない自分	支え合う喜び	つながる未来
就学前	<b>◆身のまわりのいろいろな「いのち」にふれる</b> ・自分の「いのち」を大切にす	<b>◆自分でできることは自分でする</b> ・規則正しい生活をする ・してよいことと、いけないことが分かる	<b>◆みんなと仲良くする</b> ・元気なあいさつをする ・正しい言葉遣いをする ・お手伝いをする ・家族とのふれあいを喜ぶ	
小学校	<b>◆様々な「いのち」に関わり、その豊かさ、すばらしさを感じる</b> ・自分の周りの「いのち」あるものに気づく ・かけがえのない「いのち」のすばらしさを感じる	<b>◆自分のよさに気づき、なりたい自分を目指す</b> ・基本的な生活習慣を確立する ・自分で決めたことをあきらめずにやり抜く ・よりよい生き方を求める ・将来の夢を見つけ出す	<b>◆自分の周りにいる人たちの支えに感謝する</b> ・思いやりの心を持ち、友達を大切にする ・相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にする ・進んで働く ・家族に感謝する ・約束や決まりを守る	<b>◆優れた先人や地域の文化について理解する</b> ・郷土や国の伝統と文化に親しむ ・優れた先人への憧れの気持ちをもつ ・祖先への敬愛の念をもつ ・他国の人々や文化に親しむ
中学校	<b>◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる</b> ・生命を尊重する態度を養う ・多様な「いのち」との共生について考える ・地球や自然を大切にす心を育む	<b>◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす</b> ・自己を理解する ・自己肯定感を高める ・目標を立て、失敗を生かし、困難を乗り越え、着実に取り組む ・自立した生き方を探求する ・主体的に進路を選択する	<b>◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く</b> ・感謝する心をもつ ・思いやりのある行動をする ・周りの人との信頼関係を築く ・差別をせず、偏見をもたず、それぞれの個性や立場を尊重する ・勤労の意義を理解し、勤労を通じて社会に役立とうとする ・規律ある行動をとる	<b>◆「先人の生き方」を学び将来を考える</b> ・郷土と国への愛着と誇りをもつ ・優れた先人に学ぶ ・日本人としての自覚をもつ ・国際社会への関心をもつ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           学校・学年・学級等の目標づくりの参考資料としても活用できます。         </div>				
高等学校	<b>◆共に「いのち」を輝かせ、よりよく生きる</b> ・人間の力を超えたものへの畏敬の気持ちをもつ ・グローバルな視点から、地球全体、広い社会をみんなで守ることの大切さを考える	<b>◆進路選択を通じて自己実現を目指す</b> ・自己を確立する ・人間としての在り方生き方を探求する ・適切な進路を切り拓く	<b>◆社会の一員として責任を果たす人間になる</b> ・社会の一員として、人権を尊重し、差別や偏見のないよりよい社会づくりに参画する ・自分の役割と責任を自覚する ・助け合いの精神をもち、実践する ・家族を大切にし、家庭生活を充実させる	<b>◆伝統や文化を見つめ、よりよい社会を目指す</b> ・歴史や伝統、先人の生き方を通してよりよい社会の在り方を考える ・郷土と国を愛する心をもつ ・真の国際人として、また地球社会の一員としての自覚を深め、よりよい社会を実現する態度を養う
参考 関連する 道徳の 内容項目	D 生命の尊さ D 自然愛護 D 感動、畏敬の念 D よりよく生きる喜び	A 善悪の判断、自主、自律、自由と責任 A 正直、誠実 A 節度、節制 A 向上心、個性の伸長 A 希望と勇気、努力、克己と強い意志 A 真理の探究、創造	B 親切、思いやり、感謝 B 礼儀 B 友情、信頼 B 相互理解、寛容 C 規則の尊重、遵法精神、公德心 C 公正、公平、社会正義 C 社会参画、公共の精神 C 勤労	C 家族愛、家庭生活の充実 C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 C 国際理解、国際親善、国際貢献
小・中学校学習指導要領の内容「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」との対応を「関連する道徳の内容項目」として示した。				

「千葉県道徳教育推進のための基本的な方針」(令和2年3月改訂) 編集・発行 千葉県教育委員会

このリーフレットは、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業(文部科学省)の委託を受けて作成しました。

# 「道徳教育推進のための基本的な方針」解説（改訂版）

## I 基本的な考え方

1 子供たちが郷土と国を愛し、豊かでおおらかに、そして自信にあふれた頼もしい人間として成長し、真の国際人として活躍できるように内面に根ざした道徳教育の充実に努める。

この基本的な方針は、第3期千葉県教育振興基本計画「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」の重点施策である「道徳性を高める心の教育」を推進することを目的としています。

そのためには、学校等における道徳教育のより一層の充実に努めるとともに、県民一体となって道徳性の向上に取り組み、郷土と国を愛し、豊かでおおらかに、そして自信にあふれた頼もしい子供たちを育てていくための取組を推進する必要があります。

なお、「内面に根ざした道徳教育」とは、自主的、自律的に道徳的実践のできる子供たちを育成するため、一人一人が道徳的諸価値の理解を基に、人間としての在り方生き方について深く考え、将来出会うであろう様々な場面・状況においても適切な行為を主体的に選択し、実践できる判断力、心情、実践意欲、態度など、内面的資質としての道徳性を養う教育です。

2 学校は、地域における道徳教育の中核として、子供たちが言語活動や読書活動、体験活動や社会参加活動などを通して、より深く考え、実践力を身に付けられるように、家庭や地域との連携に努める。

子供たちにとって、一緒に生活する親等は最も身近な手本であり、家庭教育が教育の出発点として基本的な生活習慣をはじめ、豊かな情操、基本的な倫理観、自立心など、子供の基礎的能力を育てていくために重要な役割を担っています。

一方、子供たちの道徳性を高める営みを体系的に行う学校教育が、道徳教育の中核として果たす役割もまた重要であり、学校が核となり、家庭や地域住民と連携し、豊かな体験を通じた道徳教育に取り組むことが必要です。

## II 千葉県における道徳教育の主題

千葉県では、子供たちが、人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりやつながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、自らの人生（「いのち」）をよりよく生きていけるように、学習指導要領等を踏まえて重点的な指導を行うこととする。

このため、「『いのち』のつながりと輝き ～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～」を千葉県における道徳教育の主題として掲げ、県民一体となった取組を推進する。

現代の社会では、生活様式も変化し、自分と自分を取り巻くものとの関わりが希薄になってきています。ここで言う「いのち」とは、人間をはじめとするあらゆる動植物の生物学的な命のことであり、人の心、自己の在り方生き方や人生を含めた存在自体を示すものであると捉えています。自分と自分を取り巻くものとの関わりや、つながりを意識していくためには、まず自己の生命の尊厳について深く考え、自己以外の生命も同様に大切にし、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつように指導することが重要です。また、自然に親しむことにより、自然の生命を感じ取り、自然とのつながりを見出して共に生きようとする態度を養うことが大切です。そのために、千葉県では、県民一体となって、「『いのち』のつながり」を大切に、人生をよりよく生きていこうとする子供たちを育成していくため、本主題を設定しました。

副題の「大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし」は子供たち一人一人が確かな自己肯定感に基づいて、自分を取り巻く全ての人と環境をかけがえのないものと感じ大切にしていけることを表したものです。

この方針に示す学習内容は、教育活動全体及び「道徳科」・『『道徳』を学ぶ時間』の指導の中で、関連的、発展的な指導や繰り返し指導を行うなどして重点的な指導を行うことが大切です。なお、小・中・義務教育学校等では、いずれの学年においても学習指導要領に示された内容項目をすべて取り上げる必要があります。

### Ⅲ 重点化の視点

「『いのち』のつながりと輝き」という主題を実現するため、以下の4つの視点から教育内容の重点化を図る。

「『いのち』のつながりと輝き」という主題のもとに道徳教育を進めていくに当たり、幼稚園教育要領や学習指導要領を踏まえた上で、発達の段階に応じて道徳教育の体系化と学習内容の重点化を図りました。

#### すばらしい「いのち」

全ての生命を尊重し、生命を育む自然や地球を大切に、共に生きていこうとする態度を養う。

人間は、過去から現在までの多くの存在に支えられ、つながりをもって今を生きており、そのつながりをより豊かなものとする必要があります。また、これからの社会ではあらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会の変化を乗り越えていくことが求められています。そのため、子供たちが、自らの人生をよりよく生きていけるように、人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりや、つながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、共に生きていこうとする態度を養う必要があります。

また、古来日本人は、自然から受ける様々な恩恵に感謝し、自然との調和を図りながら生活を営んできましたが、ときに自然は人間の力を超えた驚異を見せつけ、偉大なる自然の前に人間の無力さを感じることもあります。自然や動植物を愛し、共存の在り方を積極的に考え、自然環境を大切にしようとする態度は、持続可能な社会の実現に資するものでもあります。

#### かけがえのない自分

自分のよさに気づき、よりよい生き方を探求し、自己実現を目指す態度を養う。

発達の段階が上がるにつれ、自己理解が深まり、自分なりの在り方生き方についての関心が高まってきます。一方で、自分の欠点や短所ばかりが気にかかり、自己を肯定的に捉えることが難しくなってきます。そこで指導に当たっては、自分のよさや個性を見出し、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓く態度を養うことが大切になってきます。また、自分を生かし伸ばしていくためには、常に自己を成長させていこうとする意欲が必要であり、絶えず高い理想を求め、志をもって明るく前向きに生きることが、より自分の人生を豊かにしていくことに気づかせることも大切です。

#### 支え合う喜び

父母、祖父母等の家族や自分の周りにいる人たちの支えに感謝し、豊かな人間関係を築き、社会に貢献する態度を養う。

人間は互いに助け合い、協力し合って生きています。現在の自分があるのも、家族や自分の周りにいる人たちに支えられてきたからです。しかしながら、自分を支えてくれる人たちの存在に気づかず、

当たり前のように過ごしがちであり、たとえ気づくことができたとしても、感謝の気持ちを素直に伝えることができないこともあります。

そこで、多くの人々の善意によって自分自身が支えられていることに喜びを見出し、それに対して自分がどう応え、表現し、相手に伝えられるかが、豊かな人間関係を築く上で必要であることに気づかせることが大切です。そして、身近な人との関わりから出発して、社会への感謝の心を持ち、社会の一員としての自覚を促し、やがて社会を支えるために働く等、充実した生き方を追求し実現していくことが、人間としての成長を促すことにもなります。

#### つながる未来

郷土や国の伝統・文化を理解し、先人の生き方に学び、持続可能なよりよい社会を築こうとする態度を養う。

自分たちが生まれ育った地域や郷土のよさを見直し、再発見することは大切なことです。そして先人たちが営々と築いてきた伝統、文化を大切にできる心情を育て、またそれを大切に保存し、現在に伝えてきた人々への共感を通して、日本人としての自覚を促していくことも大切です。世界の中の日本人として、グローバルな視点を持ち、国際社会で生きる能力を身に付け、地球社会の一員として主体的に、よりよく、そして持続可能な社会を築こうとする態度を養うことが重要です。

#### IV 発達の段階に応じた取組

教育振興基本計画の基本的な取組方針を踏まえ、子供たちが発達の段階に応じて豊かな自然や多くの人々、様々な知識や技能に「ふれる」・「かかわる」・そして「つながる」ことで人間的に成長していくことを目指す。

第3期千葉県教育振興基本計画の基本的な取組方針「ふれる」・「かかわる」・そして「つながる」を受け、子供一人一人が、発達の段階に応じて、様々な事象に触れ、つながり、関わることを意識した取組により、子供たちの道徳性を養っていきます。

##### 就学前

様々な命や人とのふれあいの中で、人への愛情や信頼感を育て、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培う。

##### 小学校

自己の生き方についての考えを深めながら、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を養う。

##### 中学校

道徳的諸価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を養う。

##### 高等学校

自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

ここでは、千葉県における道徳教育の主題や重点化の視点を踏まえ、学校種ごとに取組のテーマや目標を示しています。各学校等においては、これらを踏まえ、学校や子供たちの実態に応じて道徳教育に関する全体計画を作成し、道徳教育のより一層の充実を図っていくことが求められます。

## V 具体的な取組

幼稚園教育要領、小・中・高等学校・特別支援学校学習指導要領等における道德教育をさらに発展・充実させるため、Ⅱに掲げる千葉県における道德教育の主題を踏まえ、道德教育を体系化し、学習内容の重点化を図り、就学前から高等学校まで発達段階に応じて、「道德科」（小・中学校）・『道德』を学ぶ時間」（高等学校）等を要とした道德教育の充実を図るなど、県民一体となった具体的な取組を促進する。

人間は、過去から現在までの多くの存在に支えられ、つながりをもって今を生きており、そのつながりをより豊かなものとする必要があります。そのため、子供たちが、人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりやつながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、自らの人生をよりよく生きていけるように、幼稚園教育要領や学習指導要領を踏まえた上で、発達段階に応じて道德教育の体系化と学習内容の重点化を図りました。ここで言う「いのち」とは、人間をはじめとするあらゆる動植物の生物学的な命のことであり、人の心、自己の在り方生き方や人生を含めた存在自体を示すものでもあると捉えています。

**1 学校は、言語活動、読書活動、体験活動及び社会参加活動等に積極的に取り組み、子供たちが、人や社会、自然などとの豊かな関わりの中で、様々な経験を通して道德性を養うように努める。**

道德教育を進めるに当たっては、豊かな体験を通して子供たちの内面に根ざした道德性の育成が図られるようにすることが必要です。学校には、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動や言語活動、読書活動への積極的な取組が求められます。

**2 学校は、道德教育推進教師等を中心に全教職員が道德教育の重要性についての理解を深めるため、研修の充実を図る。**

道德教育は、校長の方針の下、学校の教育活動全体で取り組まれ、個々の教師の責任ある実践に託されていくものです。学校が組織体として一体となって道德教育を進めるため、道德教育推進教師等が道德教育の推進を中心となって、全教職員が力を発揮できる体制を整える必要があります。その主な役割としては、以下に示すような事柄が考えられます。

- ア 道德教育の指導計画の作成に関すること
- イ 全教育活動における道德教育の推進、充実に関すること
- ウ 「道德科」・『道德』を学ぶ時間の充実と指導体制に関すること
- エ 道德用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道德教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ 授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- キ 道德教育の研修の充実に関すること
- ク 道德教育における評価に関すること

**3 小・中学校等では、「道德科」における指導と評価の改善・向上に努めるとともに、授業を積極的に公開する。**

全ての教職員は、人生の先輩として、児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有していこうとする姿勢をもつことが大切です。特に、「道德科」・『道德』を学ぶ時間の指導においては、児童生徒が自ら課題に取り組み、自己や他者との関係を深く見つめ、生きる希望や勇気を見出すことができるように指導と評価の改善・向上に努めることが期待されます。このため、道德教育に関する研修の充実を図る必要があります。

また、学校における道徳教育の充実はもとより、家庭や地域における児童生徒の道徳性を高める取組を促進するため、児童生徒と保護者や地域住民がともに考える、道徳科等の授業公開に積極的に取り組むことが必要です。

**4 高等学校等では、平成25年度から原則として第1学年（1年次）に35単位時間程度導入している『道徳』を学ぶ時間（平成23年1月6日付け、教指第1637号・教特656号により通知）を引き続き、特別活動の時間を中心に総合的な探究の時間等、各学校の教育課程に適切に位置付けて実施する。また、『道徳』を学ぶ時間を積極的に公開し、より一層の充実を図る。**

全ての県立高等学校及び高等学校に準じた教育課程を実施する特別支援学校の高等部に、平成25年度から、第1学年（1年次）に特別活動の時間を中心に総合的な探究の時間等を活用して、『道徳』を学ぶ時間を35単位時間程度導入しています。実施に当たっては、本方針に示す高等学校の学習内容を重点的に行い、授業の様子等を公開するなど、内容の充実に努めることが求められます。また、道徳教育は公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動と並び、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であると捉え、一層の深化を図る必要があります。

**5 校長は、家庭や地域社会の期待等を踏まえながら、自らのリーダーシップの下、学校教育目標との関わりで、自校の道徳教育の基本的な方針を明確に示すことにより、道徳教育の改善・充実に具体的に図るよう努める。**

小・中・高等学校それぞれの学習指導要領の総則には道徳教育を進めるに当たっての配慮事項として、「各学校においては、第1（款）の2の（2）に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を推進すること。」とあります。

校長が、道徳教育の全体計画等において、学校や地域社会の実情、児童生徒の道徳性に関わる実態をもとに、家庭や地域社会の期待等を踏まえ、学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について明確に示します。それは、学校の全教職員が協力して道徳教育を改善・充実に図るよりどころとなります。

**6 県教育委員会は、各学校及び教員の取組を支援するため、道徳教材や指導資料の整備、道徳教育に関する優れた取組などの情報提供に努める。**

千葉県全体で『いのち』のつながりと輝きを主題とした道徳教育に取り組んでいくためには、道徳教育についての議論を深めながら、その本質を踏まえた就学前から高等学校までの効果的な教材や指導資料が必要です。

そこで、県教育委員会では、道徳教育に関する教材や指導資料等、先進的な事例や研究の成果などの情報提供を行い、各学校や教職員の取組を支援します。

各学校では、道徳教育全体計画、道徳科・『道徳』を学ぶ時間の年間指導計画を作成するに当たっては、以下に示す重点的に取り組む学習内容に留意する必要があります。

## VI 学習内容

### 就学前

#### すばらしい「いのち」

- ◆身のまわりのいろいろな「いのち」にふれる
  - ・自分の「いのち」を大切にする

身の回りのいろいろな「いのち」とは、人間をはじめとするありとあらゆる動植物の生物学的な命のほか、幼児を取り巻く両親、祖父母、兄弟姉妹、友達等の存在を指します。

幼児は日常の生活や遊びを通して様々な「いのち」と触れ合いながら、それらは確かに「生きている」ということを感じ取ります。そして、とりわけ人間に対しては、生きているだけでなく「思っている」ということに気づきます。このことは幼児の道徳性の芽生えを培う上でとても大切です。

他者との関係の広がり、同時に自我の形成の過程でもあります。自分以外のいろいろな「いのち」とのふれあいを通し、幼児たちの心には「いのち」の大切さを考える基礎が培われ、このことが自己肯定感の礎となる自分の「いのち」を大切に思う心を育てていきます。

### **かけがえのない自分**

#### **◆自分でできることは自分です**

- ・規則正しい生活をする
- ・してよいことと、いけないことが分かる

幼児が、自分の身の回りのことなどをできるだけ自分の力でやろうとする意欲を育てることは大切なことです。この場合、単に何かを「できる」、「できない」ということのみが問題ではなく、あくまでも自分でやりたいことを意識し、自分が思ったことができたということを喜ぶ気持ちが大切です。

その中で、例えば、決まった時間に寝起きすることや食事の前に手を洗うことなどの基本的な生活習慣を身に付けさせることにより、生活に必要な習慣の大切さに気付かせ、自覚させるようにして、幼児の自律性の基礎を育てていきます。

また幼児期は、家庭での生活はもとより、幼稚園や保育園などの集団生活の中で、様々な葛藤やつまづきなどを体験することを通して、将来の善悪の判断につながる、してよいことと、いけないことの基本的な区別ができるようになる時期でもあります。周りの大人たちの適切な指導と支援によって、将来の社会生活をよりよく生きていくための道徳性・規範意識の芽生えを培っていきます。

### **支え合う喜び**

#### **◆みんなと仲良くする**

- ・元気なあいさつをする
- ・正しい言葉遣いをする
- ・お手伝いをする
- ・家族とのふれあいを喜ぶ

幼児に限らず、人間関係は挨拶から始まります。まずは、幼児に、挨拶を交わすことの心地よさと大切さを、周囲の大人が日常生活の中で伝えていくことが大切です。また、友達同士の場合や大人に対する場合など、相手に応じた適切な言葉遣いの基礎を身に付けるのもこの時期です。元気なあいさつをすることや正しい言葉遣いをする事によって、周囲の人々とよりよく生きていくための基礎を培っていきます。

また、将来のボランティア精神の基盤となる人の役に立つ喜びを幼児期に経験させるために、家庭でも簡単な手伝いをする事などによって、他者の役に立っているという自己有用感を得られるようにすることも大切です。特に父母や祖父母などの極めて身近な家族とのふれあいの中で、「愛されている」という安心感を得ながら、家族の愛情に気づき、おのずとその家族を大切にしようとする気持ちをもつように働き掛けることも必要です。

## 小学校

### すばらしい「いのち」

- ◆様々な「いのち」に関わり、その豊かさ、すばらしさを感じる
  - ・自分の周りの「いのち」あるものに気づく
  - ・かけがえのない「いのち」のすばらしさを感じる

児童は日常の家庭生活や学校での学習、そして様々な体験活動を通して、自分の周りにおける多種多様な「いのち」の存在に気が付きます。特に無数の動植物が地球という大自然の循環の中で、その命をつないでいる様子は、児童の心に生命に対する感動や畏敬の念を抱かせるはずです。かけがえのない「いのち」の存在を知ることにより、道徳性の大切な基盤の一つである人間尊重の精神が、深まりと広がりをもって児童の心に育まれていきます。

### かけがえのない自分

- ◆自分のよさに気づき、なりたい自分を目指す
  - ・基本的な生活習慣を確立する
  - ・自分で決めたことをあきらめずにやり抜く
  - ・よりよい生き方を求める
  - ・将来の夢を見つけ出す

基本的な生活習慣に関わる指導を進めるに際しては、それを型の指導やその繰り返しだけにするのではなく、児童自身が内面からそれを望ましいことだと自覚し、節度ある自制心が培われるように指導していくことが大切です。基本的な生活習慣が身に付くことによって、児童の毎日の心情は安定し、余裕をもって様々な活動に取り組むことで、自分自身のことについても落ち着いて考えることができるようになります。

小学校段階においては、児童は日々の生活の中で、自分を振り返り、自分のよさについて考え、それに気付くことで確かな自己肯定感を育んでいきます。また、児童は受け止めた自分らしさを踏まえて、これからの自分に夢や希望をもち、社会的自立に向けてよりよい生き方をしようとします。そのために、道徳科はもとより、毎日の生活や学習においても、自分の日常の姿を振り返ったり、伸ばしたい自己像や自己目標などを意識し、達成するために粘り強くやり抜いたりする機会も充実していくことが求められます。

### 支え合う喜び

- ◆自分の周りにいる人たちの支えに感謝する。
  - ・思いやりの心をもち、友達を大切にする
  - ・相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にする
  - ・進んで働く
  - ・家族に感謝する
  - ・約束や決まりを守る

よりよい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切ですが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要であることは言うまでもありません。身近な家族など人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてきます。そして、それは、日々の生活、さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり、自己有用感が高まり、生命尊重や人間尊重の精神を支えることにもなります。また、ものの感じ方や考え方の異なる人との交流は、自分の考えを深め、感性を磨くことにもなります。

小学校段階では、約束や決まりを守る等、規律ある行動をとることによって、周囲と協調しようとする心を培っていくことも求められます。そして同時に、周りの人たちに思いやりの心を持ち、親切的な態度で接することも大切です。

### つながる未来

#### ◆優れた先人や地域の文化について理解する

- ・ 郷土や国の伝統と文化に親しむ
- ・ 優れた先人への憧れの気持ちをもつ
- ・ 祖先への敬愛の念をもつ
- ・ 他国の人々や文化に親しむ

家庭生活を中心として、例えば七夕などの伝統行事や地域に伝承されている芸能などに触れることで、郷土や我が国の伝統と文化に親しむ態度と心情を育てていくことが大切です。

また、小学校においては、他教科、総合的な学習の時間、体験活動などを取り入れた特別活動等を通して、郷土や我が国の発展に尽くし伝統と文化を育てた先人の努力を理解し、優れた先人への憧れの気持ちを育てていきます。そしてその心情は、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚させ、そのために努めようとする心構えを育みます。

慌ただしい現代において、人は、とかく祖先への敬愛の念を忘れがちです。小学校段階で、郷土と国の伝統と文化に親しむことや優れた先人の営みを知ることは、祖先への感謝と祖先を大切にすることを育てていくものでもあります。

さらに、今後ますます国際社会との交流は活発になります。他国の人々や文化に関心を持ち親しみ、進んで関わろうとする気持ちを育てていくことも大切です。

### 中学校

#### すばらしい「いのち」

#### ◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる

- ・ 生命を尊重する態度を養う
- ・ 多様な「いのち」との共生について考える
- ・ 地球や自然を大切にすることを育む

現在の一つ一つの生命がそれ以前の無数の生命の懸命な継承の結果であることや、自分の生命がいかに多くの存在につながり支えられているかなどを自覚することによって、全ての人間や生命あるものを尊重し、大切にしようとする心が培われます。また、それらを育んできた地球や自然をかけがえのないものと感じ、大切にしていこうとする心も育てていきます。

しかしその一方で、中学生段階になると、生徒は日々の生活や学習を通して、多様な「いのち」の共生の難しさに気づき始めます。「いのち」を「人間の生き方」と捉えた場合、価値観の異なる人とのつきあい方や、異なった文化をもつ他民族との交流の仕方などに思いが至ります。また、「いのち」の内容を生物学的に捉えた場合、例えば、産業振興を目的とした道路建設のための森林伐採や農作物を荒らす鳥獣被害対策などの問題に突き当たることもあります。多様な「いのち」との共生の道は険しく、生徒は大いに悩むに違いないかもしれませんが、これらのことに目を向けることにより、自らの生き方について深く考え、このことが生徒の道徳性を支える大切な基盤の一つとなっていくのです。

### かけがえのない自分

#### ◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす

- ・自己を理解する
- ・自己肯定感を高める
- ・目標を立て、失敗を生かし、困難を乗り越え、着実に取り組む
- ・自立した生き方を探求する
- ・主体的に進路を選択する

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってきます。「人生をいかに生きるべきか」といった命題にも真剣に取り組むようになります。しかし一方で、自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人との比較において捉えたりするために、その至らなさに一人思い悩むことも少なくありません。そして、他人と同じように扱われることを嫌ったり、反対に他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもあります。とかく自分の内部にある否定的な側面に目が行きがちとなるこの時期の生徒のよいところを積極的に認めることなどによって、自己肯定感を適切に育てて行くことが大切です。また、自分の欠点や短所の追求のみに偏ることなく、かけがえのない自己をまずは肯定的に捉えるとともに、自己の優れている面などの発見に努め、自己との対話を深めつつ、目標を立て、困難や失敗を乗り越えながら、着実に取り組むことで自己の力を更に伸ばしていくようにすることが大切です。また、キャリア教育の視点に立ち、これからの生き方や進路に向けての主体的な選択がなされるように、適切な指導や支援が必要です。

### 支え合う喜び

#### ◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く

- ・感謝する心をもつ
- ・思いやりのある行動をする
- ・周りの人との信頼関係を築く
- ・差別や偏見をもたず、それぞれの個性や立場を尊重する
- ・勤労の意義を理解し、勤労を通じて社会に役立とうとする。
- ・規律ある行動をとる。

中学生の時期には、人間愛に基づく他の人との関わりの大切さを理解できるようになってきます。しかし、人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境と合わせて、生徒は温かい人間愛に恵まれないと感じて、とかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合があります。指導に当たっては、単に思いやりの大切さに気づかせるだけでなく、根本において自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切です。そのためには、助け合いながら何かを達成していくような機会を多くつくり、互いに支え合う経験を積みながら、思いやりの心と態度が育まれていくように工夫する必要があります。また、職場体験活動やボランティア活動、福祉体験活動等の豊かな体験を生かし、働くことを通して社会貢献することの尊さや意義について考えることも必要で、実際の活動から自己有用感を育てていくことも大切なことです。

生徒は家族や周りの人々の思いやりに触れ、それを素直に受け止めたとき、おのずと感謝の念を抱くようになります。そして、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚し、さらに豊かな人間関係が築かれていきます。また同時に、他者とのよりよい関係を築くために、自分と違う立場や考えを受け入れたり、他者を理解したり、自分を律したりする態度も育てていく必要があります。

### つながる未来

#### ◆「先人の生き方」を学び将来を考える。

- ・郷土と国への愛着と誇りをもつ。
- ・優れた先人に学ぶ。
- ・日本人としての自覚をもつ。
- ・国際社会への関心をもつ。

中学生の時期になると、郷土や日本の歴史に対する理解が深まり、それらの伝統と文化に対しても一層関心をもつようになります。そこで、優れた先人の業績などを学習することなどによって、この関心をさらに高め、郷土と国への愛着と誇りを持ち、その発展に寄与しようとする心情と態度を育成することが大切です。

郷土と国への愛着と誇りは、日本人としての確かな自覚を促します。そして、その自覚は国際社会の中での日本人及び日本の在り方や、世界の平和と発展に寄与しようとする心情と態度につながっていくものです。

この意味において、道徳教育の中で先人の生き方や、受け継がれてきた文化や伝統、さらには国際社会への関心を深めていく指導が求められるのです。

### 高等学校

#### すばらしい「いのち」

#### ◆共に「いのち」を輝かせ、よりよく生きる

- ・人間の力を超えたものへの畏敬の気持ちをもつ
- ・グローバルな視点から、地球全体、広い社会をみんなで守ることの大切さを考える

人間の力を超えたものへの畏敬の念をもつとき、人はおのずから謙虚になります。その謙虚な姿勢で世界を見たとき、自他の「いのち」の尊さや生きることのすばらしさの自覚を深めることができます。しかし高校生段階になると、それぞれがかけがえのない尊い存在であるはずの自他の「いのち」の共生には、理屈では言い尽くせない多くの課題があることを明確に認識します。「いのち」が一つだけでは存在できないことによる様々な葛藤、「生きるということ」がはらんでいる矛盾に思いが至ります。その上で、全ての人間が自分らしく輝く社会、また、人間以外の生き物や自然環境も大切にされる持続可能なよりよい社会の構築に向けて、グローバルな視点をもって努力しようとする心情や態度を、全ての教育活動を通して育んでいくことが求められます。

#### かけがえのない自分

#### ◆進路選択を通じて自己実現を目指す

- ・自己を確立する
- ・人間としての在り方生き方を探求する
- ・適切な進路を切り拓く

高等学校段階の生徒は、自分の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何かということについて思い悩みます。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国や社会について関心を持ち、普遍的な問題として人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもあります。生徒はそれらを模索する中で、生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観・世界観ないし価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていきます。

したがって、高等学校においては、このような生徒の発達の段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められます。

また、社会において果たさなければならない使命の自覚に基づいて、個性に応じて将来の進路を決定させるような指導や支援も道德教育の大切な使命の一つです。

### **支え合う喜び**

#### **◆社会の一員として責任を果たす人間になる**

- ・社会の一員として、人権を尊重し、差別や偏見のないよりよい社会づくりに参画する
- ・自分の役割と責任を自覚する
- ・助け合いの精神をもち、実践する
- ・家族を大切にし、家庭生活を充実させる

高等学校段階の生徒については、複雑化し、目まぐるしい変化が続く社会において、人間として調和のとれた発達を図りながら、自らの行動を選択し、決定していくことのできる主体性を育成することが大切です。また、生徒が自分のなすべきことと責任を自覚し、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を身に付け、将来の社会生活の中で自己実現を果たすことができるように、その能力や態度の育成を目指す必要があります。

また、その際には周囲の人々に対して敬愛と助け合いの精神をもって接し、あらゆる差別や偏見をなくすように努力し、自分を含めた全体の幸福のために努力する心情と態度を育むことも大切です。特に自分を育ててくれた家族に対する感謝の気持ちを育てながら、将来、自分が築くであろう家族・家庭の重要な意義や価値について考える機会を設けることも求められます。

### **つながる未来**

#### **◆伝統や文化を見つめ、よりよい社会を目指す**

- ・歴史や伝統、先人の生き方を通してよりよい社会の在り方を考える
- ・郷土と国を愛する心をもつ
- ・真の国際人として、また地球社会の一員としての自覚を深め、よりよい社会を実現する態度を養う

個性豊かな新しい文化を生み出すには、古いものを改めていくことも大切ですが、先人の残した有形無形の文化的遺産や伝統の中から優れたもの・価値のあるものを見出し、それを継承し発展させる必要があります。先人の残した優れた文化的業績とそれを生み出した精神に学び、自らを向上させていくことによって、よりよく生きたいという人間の個人的、社会的な願いを、より広い世代の共感を伴って実現することができるのです。また、これからの国際社会の中で主体性をもって生きていくには、グローバルな視野に立つことが大切であり、環境問題の解決などの視点に立ったときは、地球社会の一員としての自覚をもつことが強く求められます。

そして、この国際人、さらに地球社会の一員としての自覚をもつに際しては、自己がよって立つ基盤にしっかりと根を下ろしている必要があります。すなわち、それは自分が育った郷土であり、国です。生徒は日々の生活や学習の中で、自分の郷土や国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それを尊重し、継承・発展させる態度を育成するとともに、それらを育ててきた郷土や国への親しみや愛着の情を深め、そこにしっかりと根を下ろし、世界と日本との関わりについて考え、日本人としての自覚をもって、新しい文化の創造と持続可能なよりよい社会づくりと、その発展に貢献し得る能力や態度が養われなければなりません。

# 「いのち」のつながりと輝き

～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～

## 「ふれる」・「かかわる」・そして「つながる」

就学前

### すばらしい「いのち」

**身のまわりのいろいろな「いのち」にふれる**  
○自分の「いのち」を大切にす

### かけがえのない自分

**自分でできることは自分でする**  
○規則正しい生活をする  
○してよいことと、いけないことが分かる

### 支え合う喜び

**みんなと仲良くする**  
○元気なあいさつをする  
○正しい言葉遣いをする  
○お手伝いをする  
○家族とのふれあいを喜ぶ

### つながる未来

小学校

**様々な「いのち」に関わり、その豊かさ、すばらしさを感じる**  
○自分の周りの「いのち」あるものに気づく  
○かけがえのない「いのち」のすばらしさを感じる

**自分のよさに気づき、なりたい自分を目指す**  
○基本的な生活習慣を確立する  
○自分で決めたことをあきらめずにやり抜く  
○よりよい生き方を求める  
○将来の夢を見つけ出す

**自分の周りにいる人たちの支えに感謝する**  
○思いやりの心を持ち、友達を大切にす  
○相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にす  
○進んで働く  
○家族に感謝する  
○約束や決まりを守る

**優れた先人や地域の文化について理解する**  
○郷土や国の伝統と文化に親しむ  
○優れた先人への憧れの気持ちをもつ  
○祖先への敬愛の念をもつ  
○他国の人々や文化に親しむ

中学校

**多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる**  
○生命を尊重する態度を養う  
○多様な「いのち」との共生について考える  
○地球や自然を大切にする心を育む

**自分の生き方を見つめ、個性を輝かす**  
○自己を理解する  
○自己肯定感を高める  
○目標を立て、失敗を生かし、困難を乗り越え着実に取り組む  
○自立した生き方を探求する  
○主体的に進路選択する

**家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く**  
○感謝する心をもつ  
○思いやりのある行動をする  
○周りの人との信頼関係を築く  
○差別をせず、偏見をもたず、それぞれの個性や立場を尊重する  
○勤労の意義を理解し、勤労を通じて社会に役立とうとする  
○規律ある行動をとる

**「先人の生き方」を学び将来を考える**  
○郷土と国への愛着と誇りをもつ  
○優れた先人に学ぶ  
○日本人としての自覚をもつ  
○国際社会への関心をもつ

高等学校

**共に「いのち」輝かせ、よりよく生きる**  
○人間の力を超えたものへの畏敬の気持ちをもつ。  
○グローバルな視点から、地球全体、広い社会をみんなでする大切さを考える

**進路選択を通じて自己実現を目指す**  
○自己を確立する  
○人間としての在り方生き方を探求する  
○適切な進路を切り拓く

**社会の一員として責任を果たす人間になる**  
○社会の一員として、人権を尊重し、差別や偏見のないよりよい社会づくりに参画する。  
○自分の役割と責任を自覚する  
○助け合いの精神を持ち、実践する。  
○家族を大切にし、家庭生活を充実させる

**伝統や文化を見つめ、よりよい社会を目指す**  
○歴史や伝統、先人の生き方を通して、よりよい社会の在り方を考える  
○郷土と国を愛する心をもつ  
○真の国際人として、また地球社会の一員としての自覚を深め、よりよい社会を実現する態度を養う

＜参考＞千葉県作成の道徳映像教材と学習指導要領の内容項目との対応

作成年度	タイトル	対象	「」は千葉県道徳教育の指針4つの視点 ・は学習内容 A・B・C・Dは対応する学習指導要領の内容項目 ( )は、関連する内容項目
平成二十二年 度	青春のホイール	高校生	「かけがえのない自分」・人間としての在り方生き方を探求する
	上総掘り	中学生	「未来へつながる『いのち』」・国際社会への関心 C 国際理解、国際貢献
平成二十三 年度	ぼくのせいじゃない	小学生(低)	「かけがえのない自分」・よりよい生き方を求める D よりよく生きる喜び
	ありがとう、みさきちゃん	小学生(低)	「支え合う喜び」・広い範囲の友達とのつながりを喜ぶ B 友情、信頼
	レッサーパンダの赤ちゃんの誕生	小学生(中)	「すばらしい『いのち』」・かけがえのない「いのち」のすばらしさを感じる D 生命の尊さ
	わたしとお母さんとおばあちゃん	小学生(中)	「支え合う喜び」・家族に感謝する C 家族愛、家庭生活の充実
	今できること	小学生(高)	「かけがえのない自分」・よりよい生き方を求める D よりよく生きる喜び (C 勤労、公共の精神) (C よりよい学校生活、集団生活の充実)
	おばあちゃんは中学生	小学生(高)	「かけがえのない自分」・よりよい生き方を求める D よりよく生きる喜び
	森が育む魚・オショロコマ	小学生(高)	「すばらしい『いのち』」・自分の周りの「いのち」あるものに気付く D 自然愛護
平成二十四 年度	ひびけ心のリコーダー	小学生(中学年から)	「支え合う喜び」・広い範囲の友達とのつながりを喜ぶ B 友情、信頼 (A 希望と勇気、努力と強い意志) (いじめ問題への対応)
	いつのまに	小学校高学年から	「支え合う喜び」・広い範囲の友達とのつながりを喜ぶ B 友情、信頼 (C 公正、公平、社会正義) (情報モラルに関する指導)
平成二十五 年度	守りたいもの	高校生	「未来へつながる『いのち』」 ・歴史や伝統、先人の生き方を通して明日の在り方を考える
	支える人になりたい	高校生	「支え合う喜び」・社会の一員としての自覚を持つ
平成二十七 年度	お母さんのお母さん	中学生	「すばらしい『いのち』」・生命を尊重する態度を養う D 生命尊重
	みんなで描く心の色	中学生	「支え合う喜び」・周りの人との信頼関係を築く B 友情、信頼
	手のひらの小さな世界	中学生	「支え合う喜び」 ・周りの人との信頼関係を築く・思いやりの気持ちをもち行動する B 友情、信頼 B 思いやり、感謝 (情報モラルに関する指導)
平成二十八 年度	いのちがいっぱい	小学生(低)	「すばらしい『いのち』」・かけがえのない「いのち」のすばらしさを感じる D 生命の尊さ
	本当の宝物	小学生(中)	「かけがえのない自分」・よりよい生き方を求める D よりよく生きる喜び (A 善悪の判断、自律、自由と責任) (いじめ問題への対応)
	思いやりの花がさくとき	小学生(高)	「支え合う喜び」・親切と思いやりの心をもつ B 親切、思いやり
令和元 年度	「こんにちは」でつながる世界	小学生	「支え合う喜び」・思いやりの心をもち、友達を大切にする B 親切、思いやり ・相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にする B 相互理解、寛容
	知らなかった景色	中学生	「支え合う喜び」 ・差別をせず、偏見をもたず、それぞれの個性や立場を尊重する。 D 相互理解、寛容 ・感謝する心をもつ B 思いやり、感謝
	チャンスは自分の中にある	高校生	「つながる未来」・伝統や文化を見つめよりよい社会を目指す (C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度) 「かけがえのない自分」・人間としての在り方生き方を探究する (A 向上心、個性の伸長)